

# ダケデナク文から見えてくること

茂木俊伸

## 1. はじめに

次の(1)には、とりたて副詞「ただ」、とりたて助詞（とりたて詞）「だけ」のような〈限定〉の表現と、複合表現「だけでなく」（以下、異形態も含めて「ダケデナク」と表記する）、接続詞「さらに」、とりたて助詞「も」のような〈累加〉の表現が重層的に現れている。

- (1) ただお金を儲けるだけでなく、さらに社会にもも貢献できるような仕事があった。

これらの表現にはしばしば〈限定〉〈累加〉のような同じ意味・用法のラベルが与えられるが、具体的な意味の異同や文中における役割分担のあり方は明確ではない。

本稿では、このような表現の中でもダケデナクに焦点を当て、ダケデナクを含む文（以下、「ダケデナク文」）の分析から、次のことを示す。

- (2) a. ダケデナクは〈非限定〉の表現であるが、接続形であることにより、実質的に要素の〈累加〉を表す。  
b. ダケデナク文は、ダケデナクと共起するとりたて・並列・数量表現などに注目すると、五つの類型にまとめられる。これらの共起表現から、ダケデナク文は要素の〈非限定〉と量の〈非限定〉という二つの側面を持つことが分かる。

また、本稿で行う事例分析の展開の可能性について、本稿のような分析の観点が「とりたて」研究にどのように寄与しうるのかという視点からまとめる。

## 2. ダケデナクの形態と意味

ダケデナクは、「とりたて助詞「だけ」+コピュラ「だ」+否定辞「ない」から構成される複合表現である。これがひとまとまりの形で使われるという点については問題がないように思われるが、構成要素の意味の総和以上の意味を持つ「複合辞」と見

るかどうかについては検討が必要である。例えば、森田・松木（1989）では、類義の表現である「のみならず」「に限らず」が〈非限定〉および〈添加〉の複合辞として挙げられているのに対し、ダケデナクの扱いは明確ではない。

この点に関して、まず、ダケデナクは「だけ {で (は) /じゃ} なく ((っ) て)」、  
「だけ {で (は) /じゃ} なしに」等の形態的バリエーションを持ち、複合表現としての固定度はそれほど高くないと言える。ここから、これを文末に現れる「だけ {で (は) /じゃ} ない」(ダケデナイ) の活用形として見ることにする。

文末のダケデナイは、次の(3)のように、名詞や動詞などに後接する<sup>1</sup>。名詞接続の場合、「AはBだ」のようなコピュラ文や分裂文の後項に現れ、「AはBダケデナイ」の形をとる。

- (3) a. さて、言語学をやっているのはチョムスキーという人だけではない。言語学の研究対象がさまざまなと同様に、言語の理論も実にさまざまで多様化している。 (PB30\_00017)
- b. 眼精疲労は、ただ目が疲れるだけではない。頭痛や肩こり、全身疲労の原因にもなるのだ。 (PB34\_00180)

ダケデナイの意味は、「だけ」による〈限定〉、すなわち“当該の命題が成立する要素が、前接要素以外にない”という意味を、否定辞「ない」により否定した〈非限定〉と呼ぶべきものである。この〈非限定〉の働きにより、ダケデナイ全体で“当該の命題が成立する（同類の）要素が、前接要素以外にある”ことが述べられる。

(3b)では後続の文で同類の要素（「眼精疲労」の症状としての「頭痛」「肩こり」「全身疲労」）が具体的に明示されているが、ダケデナクの働きはあくまでも〈非限定〉であるため、同類の要素の存在をほのめかすだけでもよい。(3a)では「チョムスキー」以外の言語学者の具体名は挙げられておらず、次の(4)でも、「選挙」以外の「日歯連の力を示すもの」の存在を示しつつも、それが何かは具体的に述べられていない。

- (4) 政治力は外に向かって示すものだ。日歯連の力を示すものは選挙だけではないが、選挙が最大に力をみせるところだ。 (PB53\_00240)

後続の文において同類の要素が明示される(3b)のようなケースは、ダケデナイを

<sup>1</sup> 以下、国立国語研究所による『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) を典拠とする例文には、典拠表示としてサンプルIDを添える。典拠表示のない例は、作例である。また、例文中の下線等の記号の付加は、筆者によるものである。

そのままダケデナクに置き換えても違和感がない。このことから、ダケデナクをダケデナイの連用形（例：だけでなく）やテ形接続形（例：だけでなくて）と考えると、両者の用法の関係をうまく捉えることができる。

連用形やテ形は、並列を表す接続表現として位置付けられ（中俣2015）、要素の列挙を行う構造を形成する。このことから、ダケデナク文では、（ダケデナイの場合と異なり、）ダケデナクの後続文（主節）中に同類の要素の生起が要求される。

ダケデナクは、このような形態上の特性により、必ずしも同類の要素が明示されない本来の（ダケデナイの）〈非限定〉の表現から、同類の要素が明示される〈累加〉の表現にシフトしていると考えられることができる。

### 3. ダケデナク文に現れる共起表現

先に(1)でも見たとおり、ダケデナク文にはダケデナクに後続する部分にとりたて表現を含むさまざまな要素が現れる。次の(5)でも、ダケデナクと、二重下線や囲み線で示したような要素の列挙や量に関わる多様な表現との共起が観察される。

- (5) a. ジェイミーだけでなく、ジミーとペンドルトンも、そして、カルー夫人とセイディ・ディーンはもちろん、ポリーおばさんまでが、行かないといいはるポリアンナに反対したからでした。 (PB49\_00115)
- b. 会社の名前だけではなくメルアドやホームページまで 全てを偽ってしまいう、見事な「なりすまし」です。 (PB55\_00212)

ダケデナク文に見られるこれらの共起要素に関しては、「～に限らず」を扱った藤田（2005）、複合副助詞を扱った丹羽（2007）、「集合操作表現」を扱った江口（2013）等において具体的な言及が見られる。ここではそれらを包括する形で、ダケデナク文をいくつかのタイプにまとめて分析することを試みる。

上記の研究における指摘を踏まえながら、ダケデナク文の後続要素に注目して特徴的な類型を整理すると、次の(6)のようになる。(6a)～(6c)がとりたて表現を伴うもの、(6d)～(6e)がそれ以外の表現を伴うものである（共起する表現は代表的なものを示してある）。

- (6) a. Aダケデナク Bモ (《累加》タイプ)  
b. Aダケデナク Bマデ／サエ (《極限》タイプ)  
c. Aダケデナク Bコソ (《特立》タイプ)  
d. Aダケデナク BヤCナド (ノX) ガ (《並列・例示》タイプ)

e. A ダケデナク Q ノ X ガ (《量化》タイプ)

以下、それぞれのタイプについて、具体的に見ていく。

### 3.1 《累加》タイプ：A ダケデナク B モ

グループ・ジャマシイ (1998:190) は、後続の「も」を含む「…だけでなく…も」の形を中見出しとして立て、「両方とも、どちらもという意味」を表すとする。また、丹羽 (2007) は「だけでなく」を〈追加〉を表す複合副助詞とし、「も」と共起することが多い (同:253) とする。このように「A ダケデナク B モ」のような形をとる例を、便宜的に後続要素の意味に基づいて《累加》タイプと呼ぶことにする。

「も」による同類の要素の提示は、一つでも複数でもよい。次の(7a)は同類の要素が一つ、(7b)は二つの例である。

- (7) a. 財産分与は資産だけでなく借金も含むので、愛していても結婚前に借金の有無は必ず確めておこう。 (PM51\_00210)
- b. 子の気持ちが親にわからない。家庭だけではなく、学校でも町内でもも子供と大人の気持ちが通じないとハラハラ。 (PN3d\_00018)

このとき、「A ダケデナク B モ」におけるダケデナクと「も」は、ともに〈累加〉を表す表現と言えるが、両者が共起する形で固定されているわけではない。すなわち、次の(8)のように、ダケデナクは「も」を欠く「A ダケデナク B ガ」あるいは「A ダケデナク B ヲ」のような形でも文法的に許容される。

- (8) a. このように、介護レベルによっては、介護を必要とする者だけでなく、介護を担う人々が社会との関係から疎外される場合がある。 (PB13\_00099)
- b. サッカーそのものを教えるだけでなく、環境を整備していくことを考えていかなければならない。 (PB17\_00007)

そもそも、ダケデナクと「も」は、並列的に用いてAにBを明示的に〈累加〉するという形としては共通するが、完全に同じ機能を持つものではないと考えられる。例えば、次の(9)の文脈では「A モ B モ」と「A ダケデナク B モ」は交替できない。

- (9) (「あのときの研究会、誰が来たんだったっけ?」という問いに対して)
- a. 太郎も次郎も来てたじゃない。
- b. ??太郎だけでなく次郎も来てたじゃない。

藤田 (2005:27-28) は、「Aに限らずB」が“Aは当然だとして、その上Bもある”という含みを持つのに対し、ダケデナク (のA) にはこのような含みがないとしつつも、Aに「どうして言及するのがわかる文脈等」が必要であることを示唆している。実際、(9)では、文脈上「太郎」が来ていたことが前提になっていなければ、ダケデナクが使用できない。

ここから、「AダケデナクB」のAは、知識や文脈から予想可能な、典型的な要素として導入されると言うことができる。その同類の要素として〈累加〉されるBには、そのような制約はない。ダケデナク文のAとBは、このような非対称的な関係にあると言える。これに対し「も」は、(9a)のように、AとBを同列に導入する形の並列関係を作ることができる。

なお、この《累加》タイプには、接続詞「さらに」「そして」などがダケデナクに後続する例も含めることができる。

### 3.2 《極限》タイプ：AダケデナクBマデ／サエ

日本語記述文法研究会 (2009:94, 100-101) は、〈極限〉の「まで」「さえ」を「～だけで(は)なく」と「共起しやすい語句」として指摘する。同様の指摘は、「に限らず」「のみならず」等にも見られる (森田・松木1989, 藤田2005)。

次の例は、それぞれ〈極限〉の「まで」と「でさえも」がダケデナクの後続文に現れる例である。このような例を《極限》タイプと呼ぶことにする。

- (10) a. プールの周りの独創的な彫刻も魅惑的だ。彫刻物は、プールサイドや庭の隅だけでなく、水の中にまで置かれている。 (PB45\_00124)
- b. 松下やIBMのような超大型企业だけでなく、いわゆる中小企業でさえも、海外に進出し、経済活動を行っている。 (PB43\_00082)

3.1節で述べたとおり「AダケデナクB」のAは、予想しやすい導入用の要素である。これに対し、《極限》タイプで後続するBは「まで」「さえ」が表す意外性を伴う。このような組み合わせによって、予想しやすいAから意外なBまでを含む要素の集合が想起されることで、このタイプには、当該命題が成立する要素の範囲が広いという含意がある。このことから、《極限》タイプのダケデナク文の解釈は、後述 (3.5節) の《量化》タイプが表す「あらゆる」「さまざまな」のような大量性・多様性に近いと言える。

### 3.3 《特立》タイプ：AダケデナクBコソ

次の(11)に示すように、基本的に、ダケデナクに後続する同類の要素に「は」は付かない。

- (11) 太郎だけでなく、次郎 {も／が／\*は} 来た。

一方で、興味深いことに、排他的な含意を持ちうる表現の中でも「こそ」や「むしろ」のようなとりたて表現はダケデナクに後続しうる。ここではこれを《特立》タイプとする。

- (12) a. 春先でも心地よく使えるベタつかない保湿美容液（略）乾燥肌の人だけではなく、Tゾーンはテカるのに頬が異様にカサつく私のような混合肌の人にこそ、ぜひ使ってもらいたい。 (PM41\_00716)
- b. 当時の『広島大学要覧』によればセンターの設置目的は「大学・高等教育研究の基本的諸問題に関する研究を大学内外の多様な専門研究者の協力のもとに推進し、あわせて、大学・高等教育に関する資料提供・情報サービスを行い、大学改革に寄与する」とあり、広島大学のセンターの向けている目は、広島大学内にだけではなく、むしろ国内外の高等教育研究に向かっていたのである。 (PB43\_00094)

これらの例は、ややすわりが悪い文のように感じられるかもしれないが、表現意図としては、「AダケデナクB」のAを当然の要素として導入しておき、それに限定されない範囲の中から“特筆すべき同類の要素”であるBを示す、ということであると考えられる。

(12)の例はいずれも、「Aという通常想定される範囲ではなく、このBに」というある種の意外性が感じられる。この点は、「むしろ」が「想定されにくい要素」ととりたてるという安部（2011:243）の指摘と一致する。しかし、先に意外性に言及した《極限》タイプとは異なり、この《特立》タイプでは、関心の向け先をAからBに軌道修正するようなニュアンスを伴うように思われる。

### 3.4 《並列・例示》タイプ：AダケデナクBヤCナド（ノX）ガ

3.1節で触れたように、ダケデナクは、必ずしもここまで見たような「も」「まで」などのとりたて表現を後続要素として伴わなくてもよい。

このようなケースの典型は、ダケデナクに後続して複数の具体的な同類の要素が挙げられているものであり、「や」「など」「とか」等の並列表現や例示の表現を伴うこ

とが多い。このようなダケデナク文を、《並列・例示》タイプとする。(便宜的に「ナド(ノX)ガ」としているが、ガ以外の格助詞も含めて考える。)

- (13) a. アジアでも、日本だけでなく、韓国、台湾、香港などで活発な研究者の交流が始まり、翻訳だけでなく、国際会議やシンポジウムがつぎつぎと行われている。(PB23\_00409)
- b. もちろん、東証1部だけではなく、他にも2部、マザーズ、大証、ヘラクレス、ジャスダックなどの市場にも魅力の銘柄は多くありますので、そんな中から自分で見つけ出すのも楽しみのひとつです。(PB53\_00346)
- c. アイコンや文字の大きさだけでなく、ウィンドウの色やタイトルバーの文字の大きさ、フォントの種類など、画面のデザインを変えることもできます。(PB15\_00111)

(13a)のような「AダケデナクB, C, Dナド」「AダケデナクBやC」の形では、ダケデナクの前接要素Aに、同一の集合に属する要素B・C・Dが該当例として付け加えられている。

また、(13b)は「AダケデナクB, C…ナドノX」の形をしており、X位置の「市場」が、その前で列挙した要素に共通する特徴(集合の属性)を表している。

(13c)もこれに似た「AダケデナクBやC, DナドX」の形であるが、属性を表す名詞句「画面のデザイン」(X)の前に「の」を伴わない。これは、江口(2013, 2017)が「不定的同格構文」ならびに「集合操作表現」として示す、次のような構造に相当する(次の(14)は、江口(2017:60)の例文(16)を一部改変し、説明を追加したものである)<sup>2</sup>。

- (14) 太郎だけでなく、[次郎や三郎など]、学生が来ていた。

集合操作表現	不定的同格要素	ホスト名詞句
	(集合の「要素」)	(集合の「属性」)

また、「(aやbナドノ)Xダケデナク、(cやdナドノ)Yガ」のような形で属性を表す名詞句をダケデナクで繋ぐ場合、ダケデナクの前後それぞれに要素が列挙されている例も見られる。

<sup>2</sup> 「集合操作表現」とは、「名詞が指示する集合の操作を表わす表現」(江口2013:155)であり、「だけでなく」もその一つに挙げられている。「だけでなく」のような集合操作表現で導入される要素は「集合作成の最初の手掛かりを与える表現」(同:170)とされる。

- (15) 疼痛, 腫脹などの局所症状だけでなく, 発熱, 貧血, 白血球増多, 赤沈亢進などの全身症状がみられることが特徴です。 (PB24\_00197)

さらに, 茂木 (2000) で不定的同格要素と共通する統語的特徴を持つとした「…カラ〜マデ」(あるいは「ニ至ルマデ」)も, ダケデナクに後続して現れる。次の(16)は, 「ありすぎ (る)」からも分かるように, 具体的な先端と終端の要素を示して「見たい部分」の該当範囲の広さを述べていると解釈される。

- (16) ワクワクのシャネル!! 服だけではなく髪の先から足元まで見たい部分がありすぎて首は上下に大忙し。 (PM11\_00046)

以上のように, 《並列・例示》タイプは, ダケデナクが導入する要素の集合に関わる具体的要素を, 文中中表示・列挙する表現が見られるものである。ただし, これは他のタイプと相補的な関係にあるわけではなく, 先の(5a)のような《累加》タイプや《極限》タイプと複合した形, あるいは次に述べる《量化》タイプと複合した形になることもある。

### 3.5 《量化》タイプ: A ダケデナク Q ノ X ガ

ダケデナクの後続文には, 具体的な要素を列挙する表現だけでなく, 要素の量やバリエーションを表す表現も現れる。このようなタイプを《量化》タイプと呼ぶことにする。

次の(17)は複数を表す表現「いくつかの」, (18)が大量性や多様性を表す表現「多くの」「様々な」「各-」の例である。

- (17) 胃腸病にかぎらず, 病気の治療に薬は不可欠です。それも一種類だけでなく, いくつかの薬をもらうことが多いと思います。 (PB44\_00187)
- (18) a. この疑問には私だけではなく, 多くの人たちが関心をもって、多くの著書が発表されている。 (PB23\_00123)
- b. また、これらの果実の色は赤だけではなく、黄、オレンジ、茶、黒、紫、白と様々なものがあり、食卓を明るく彩る食材でもあるのだ。 (PM44\_00013)
- c. その落ち着いた感触が好まれて、最近はイギリスだけでなく世界各国でつくられるが、やはりイギリス製のものが最も上質だといわれている。 (PB19\_00643)



小柳 (2008) に倣い、〈限定〉を数の単複から捉えるならば、ダケデナクの〈非限定〉は、該当例が“その要素一つ”に限られず、複数存在するというを表す。複数性を表す量的表現は、(18)の「多くの」「様々な」のように要素の多さを表すものが目立つ。

さらに、次の(19)のように「すべて」のような全称量化表現が現れる例もある。

- (19) a. 今回登場した商品だけではなく、連載二十四回分の、すべての商品を集めた総リストです。 (PM11\_00394)
- b. 文字の部分を入れ替えれば、英語だけでなくフランス語、ドイツ語、スペイン語など、あらゆる言語に対応できる設計になっていた。 (PB35\_00127)
- c. 躊躇せずにドアを開けると暴力的なエレキギターの音が耳だけではなくおれの全身を揺さぶった。 (PM31\_00672)

藤田 (2005:20) は、「に限らず」の分析において、「A〔部分〕に限らずB〔全体〕(が／を 等)」というパターンを一つの類型として立てている。「AダケデナクB」の形のダケデナク文でも、B部分が「全体」を表す場合、要素Aに“すべて”を加えているのではなく、“Aを含むすべて (Aに限られないすべて)”が該当するということが表される。藤村 (2007) はこのような解釈を伴う「に限らず」「だけでなく」等について、「包含」関係を表すタイプとしている。

このような例のダケデナクは、要素の〈累加〉を行っていると言うよりもむしろ、(本来の働きである) 量的な〈非限定〉を行っていると考えられる。

### 3.6 ダケデナク文の2側面

以上見てきた5種類のダケデナク文は、〈非限定〉の「Aダケデナク」の後続部分において、“Aに類するそれ以外の要素の具体例を提示する”ことに重点を置く形と、“A以外の該当例の量 (典型的には量の多さ) を示す”ことに重点を置く形に分けることができる。これをまとめたのが次の(20)である。

- (20) a. 要素の〈非限定〉：《累加》《極限》《特立》《並列・例示》タイプ  
“A一つに限らず、このような要素 (B, C, …) も該当する”ことを表す。
- b. 量の〈非限定〉：《量化》タイプ  
“A一つに限らず、これだけの要素が該当する”ことを表す。

これらは〈非限定〉が表す二つの側面と言える。このため、例えば先の(18b)や(19

b)のように、《並列・例示》の表現による具体的な要素の列挙と《量化》の表現による量の表示が同一文中で行われることも珍しくない。

なお、《極限》タイプと、《並列・例示》タイプのうち「…カラ～マデ」のような例は、具体的な終端の要素を示してその該当範囲の広さを述べるものであるため、意味的には二つのタイプの間にも当たるとも考えられる。

#### 4. ダケデナク文から見えてくること

本稿の議論では、次のことを見てきた（再掲）。

- (2) a. ダケデナクは〈非限定〉の表現であるが、接続形であることにより、実質的に要素の〈累加〉を表す。
- b. ダケデナク文は、ダケデナクと共起するとりたて・並列・数量表現などに注目すると、五つの類型にまとめられる。これらの共起表現から、ダケデナク文は要素の〈非限定〉と量の〈非限定〉という二つの側面を持つことが分かる。

以上の分析は、ダケデナク文という一つの事例にとどまるものであるが、最後に、ダケデナクのようなとりたて助詞を含む複合表現や、ダケデナク文のような集合や量を表す複数の表現が現れる文型を分析することの可能性について、「とりたて」研究の観点から触れておく。

まず、文中のどの要素をとりたてうるのか、という問題である。

《累加》タイプのダケデナク文では、「も」がダケデナクの前接要素と同類の要素ではなく、それらを含む句や節に後接する例もしばしば見られる。例えば次の(21 a)では、ダケデナクから見ると「国内」と「韓国」や「香港」が同類の要素と捉えられるが、「も」は連体修飾節の被修飾名詞に後接しており、(21 b)と同義の解釈になる。

- (21) a. 最近は国内だけでなく、お隣の韓国や香港から「うどん」を食べに来る観光客もいるようだ。 (PN5d\_00002)
- b. [国内からうどんを食べに来る] 観光客だけでなく、 [韓国や香港からうどんを食べに来る] 観光客もいる。

この文がどのような構造になっているのかは明らかではないが、少なくとも表面上は、「主節中の「も」は連体修飾節（略）等の従属節中の要素はとりたてられない」（沼田2009:76）とする分析と対立する現象である。《累加》タイプのダケデナク文の

ように複数のとりたて表現が文中に現れる場合、それらのフォーカス（焦点）の（非）整合性を観察することで、新たな知見が得られる可能性がある。

次に、「とりたて」研究の射程の拡大についてである。

これまでの「とりたて」研究は、個々の助詞・副詞がどのような働きを担うのかという点が関心の中心に置かれており、とりたて表現同士の共起やその周辺に位置する量の表現や並列表現との共起に注目した分析・体系化は、副詞（例えば近藤2001）などに見られる程度で、まだ多くない（茂木2019）。

例えば、〈非限定〉や〈累加〉を表す複合的な並列・接続表現に限っても、先行研究では「～に限らず」「～のみならず」に加え、「～ばかりか」（森田・松木1989, 服部2006, 丹羽2007）, 「～はおろか」（服部2006, 丹羽2007）, 「～はもちろん」（藤田2005, 丹羽2007）等が分析されており、さらに「～にとどまらず」「～は言うまでもなく」「～は言うに及ばず」等も指摘できる。これらの表現でも、集合における要素間の関係や、〈累加〉や〈極限〉のとりたて表現との共起のあり方について検討する必要がある。

「とりたて」の働きは文中のどのような要素によって、どのように担われているのか」という視点から、類似の働きを持つ表現が複数現れる文を見ていくと、必然的に、とりたて助詞やとりたて副詞による集合や要素の扱い方と、並列表現や複合辞、接続詞によるそれとが質的にどのように共通しており、どのように異なるのかを考えることになる<sup>3</sup>。これは、特定の一つの表現ではなく、文全体を視野に入れながら、「とりたて」のあり方を考えていく方法である。本稿は、このような「とりたて」論の模索を、ダケデナク文を事例として行ったものとして位置付けられる。

#### 【参考文献】

- 安部朋世（2011）「ムシロ・ドチラカトイエバ・カエツテの分析」『千葉大学教育学部研究紀要』59, pp.241-245, 千葉大学教育学部。
- 江口 正（2013）「集合操作表現の文法的性質」『形式語研究論集』（藤田保幸（編））, pp.155-175, 和泉書院。
- 江口 正（2017）「選択候補句の統語論的性質」『福岡大学研究部論集（A 人文科学編）』17(4), pp.59-62, 福岡大学研究推進部。
- グループ・ジャマシイ（編）（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版。
- 小柳智一（2008）「副助詞研究の可能性」『日本語文法』8(2), pp.3-19, 日本語文法学会。
- 小柳智一（2019）「副詞の入り口—副詞と副詞化の条件—」『認知言語学を拓く』（森雄一・西村義樹・長谷川明香（編））, pp.305-323, くろしお出版。

---

<sup>3</sup> 例えば、要素間の関係を表す副詞と接続詞の関連性について、小柳（2019）に言及が見られる。

- 近藤泰弘 (2001) 「記述文法の方向性—とりたて助詞の体系を例として—」『國文學 解釈と教材の研究』46(2), pp.20-25, 学燈社.
- 中俣尚己 (2015) 『日本語並列表現の体系』ひつじ書房.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 5 第9部とりたて／第10部 主題』くろしお出版.
- 丹羽哲也 (2007) 「範列関係を表す複合副助詞」『人文研究』58, pp.247-261, 大阪市立大学大学院文学研究科.
- 沼田善子 (2009) 『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房.
- 服部 匡 (2006) 「「～どころか」, 「～どころで(は)ない」とその周辺の諸表現—あわせて, 「～ばかりか, ～はおろか」等との比較—」『複合辞研究の現在』(藤田保幸・山崎誠 (編)), pp.169-196, 和泉書院.
- 藤田保幸 (2005) 「複合辞「～に限らず」について」『滋賀大國文』43, pp.19-32, 滋賀大國文会.
- 藤村知子 (2007) 「に限らず—非限定を表す—」『複合助詞がこれでわかる』(東京外国語大学留学生日本語教育センターグループKANAME (編)), pp.187-194, ひつじ書房.
- 茂木俊伸 (2000) 「順序助詞句「AからBまで」について」『筑波応用言語学研究』7, pp.29-42, 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科応用言語学コース.
- 茂木俊伸 (2019) 「とりたて表現の研究動向」『日本語と世界の言語のとりたて表現』(野田尚史 (編)), pp.21-38, くろしお出版.
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型—用例中心・複合辞の意味と用法—』アルク.

#### 【付記】

本研究は、JSPS科研費JP18K00618の助成を受けたものである。また、本稿の内容は、日本語文法学会第20回大会（於：学習院大学、2019年12月7日）における口頭発表「ダケデナク構文から見えてくること」に基づいている。同発表に対して貴重なご指摘・ご意見を下さった皆様に御礼申し上げる。

(もぎ としのぶ／熊本大学大学院人文社会科学研究所)